

仙北市IoT推進ラボを中心とした「仙北インパクトチャレンジ」 (秋田県仙北市)

取組概要

ドローンを始めとする近未来技術を活用した地域課題を解決する産業づくりのため、「仙北市近未来技術を活用した新たな産業づくり支援協議会」を設立し、地方版IoT推進ラボの事務局機能を付加し、「TAZAWAKOベース」を拠点とし、事業連携をしている民間グループ(SFPパートナーズ)のアイデア及び資金調達により、インパクトの高い事業を優先的に、地元市民を巻き込んだサービス開発・事業化に向けた情報発信・交流の場づくりをしている。

取組の効果

仙北インパクトチャレンジの開催では、最新テクノロジーの研究・開発・実装を異分野の仲間が一同に会し、ビジネスモデルの発表により事業創造の推進に寄与し、教育分野においてもAI/IoTに対応できるように小学校の授業にロボットプログラミングやドローンを取り入れるなど積極的に活用するなど、文部科学省の新指導要領の内容を先取りしたプログラミング教育を確固たるものにさらに推進している。

創意・工夫した点

経済産業省から認定された仙北市IoT推進ラボとして、近未来技術実証特区認定のアドバンテージを活かし、同日開催されたドローンによる国際空撮映像コンテスト「仙北インターナショナルドローンフィルムフェスティバル」の発表に便乗し、シナジー効果及び集客に努めた。

他団体へのアドバイス

人口減少でも、高齢化でも、酷寒でも、豪雪の過疎地でも近未来技術のハブになれると信じ、積極的に民間の技術とアイデア、資本を活用し、熱意と信念をもって地域を拓こう。

人口 26,902人 (H30.1.1現在)

担当 地方創生・総合戦略室



地元会社によるドローン機器の紹介及び実演



教育分野でのAI/IoTの活用事例と可能性について